沖縄県宮古語大神方言

金田　章宏

1　沖縄県宮古島市大神島の概要

以下、2017 年 1 月に出版された『ウプシ　大神島生活誌』をもとに概要をのべる。

大神島は、宮古島の北 4 キロほどの距離に位置する。最高点は 74.4m（宮古島の最高点は約 115m）、面積は 0.24 平方キロ（東京ドーム約 5 個分）、池間島の約十二分の一ほどの大きさである。かつてはサバニで数時間かけて宮古島に渡っていたが、現在は大神港から島尻漁港まで定期船で 15 分ほどで着く。2015 年 1 月の伊良部大橋の完成により、宮古島周辺の離島で唯一橋の架かっていない島となった。

大神島は世帯数 19 戸、男性 17 人、女性 13 人の計 30 人(2015 年)が住む。人口のピークは 1960 年頃で 245 人が住んでいた。人口の増加にともない、1962 年に宮古島中東部の高野集落に 18 戸が移住した。その後は緩やかに人口が減少している。なお、2018 年 1 月現在の人口は 24 人で平均年齢は約 80 歳である。

2　宮古語大神方言の概要

大神方言の話者数は、大神島に住む全員と高野集落に移住したなかの高齢者 10 人程度（高野地区在住者より）とみられる。大神島については小中学校が 2011 年に廃校となったこともあって高齢化がさらに進んでいる。

大神方言に関する調査資料や研究論文は、この方言に特徴的な音声・音韻を中心にごくかぎられていて、使用可能な教材等はないにひとしい。また、方言人口も上に述べた状況であり、消滅の危機という点ではもっとも深刻である。

3　人口構成からみた大神方言

小中学校廃校の影響もあって、中年以下の世代が島を離れている。その結果、平均年齢が約 80 歳という極端な高齢化がおこっている。

4　共通語教育と方言教育

文字資料はみつけることができなかったが、方言話者よりうかがった話をまとめておく。方言札は敗戦後から昭和 40 年ごろまでおこなわれ、何人かのグループごとに 1 枚の札が割り当てられたという。学校で方言を使った生徒は方言札を首からかけられ、札をかけられた生徒は他の生徒に無理に方言を使わせて自分の方言札をかけさせた。現在の 50 代後半ぐらいから 80 歳ぐらいまでの人たちが経験している。これより下の世代では札の使用

はなく、口頭による指導がおこなわれた。

５　地域コミュニティーにおける方言保存活動

方言人口自体の絶対的な少なさと年齢層の極端な偏りとで、方言保存活動はほとんどおこなわれてこなかった。唯一、内部からの方言保存活動的なものとしてあげられるのは、島の住人とその協力者が中心となって出版した『ウプシ　大神島生活誌』(2017)のなかで大神方言をとりあげたことである。(この小冊子は、これまでベールに包まれていた島の祭祀に関わる詳細な記述をおこなったことで、むしろ高く評価されるだろう。)

６　方言資料の作成

大神方言に関する記述には『琉球の方言　宮古大神島』(1977)など、あるていどまとまったものもみられるが、一般向けに公刊されたものはほとんどみられない。そのなかで『ウプシ　大神島生活誌』は島の人たちが読むことを前提に公刊されていて、大神方言語彙のごく入門的なものとしてあげることができる。ただ、読みやすさに重きをおいた結果、表記をかなり単純化することになったのは残念である。

７　音声と音韻

本稿における方言例の表記と音声との関係は以下のとおりである。

○ ε は、長母音 ε:では基本的にひろいが、短母音はそれよりもややせまくて e に近く、相補分布をなす。ともに ε でしめす。

○ 中舌母音は ɿ、その無声音は便宜的に S でしめす。

例：pSkakɿ 日にち、ikɿmusu 動物、ɿara 鎌、ikS いつ、ffakSsa 鍬は、mkS=nu 道の

○ 母音と組み合わさる音素 k に対して、無声の摩擦音 f をともなう k が存在するが、その表記は kf ではなく kF とする。単独に発音される音素 f と区別するためである。

例：kFfati(くファティ)作ろう。ffati(フ。ファティ)閉めよう。

○ 母音の無声化は「。」で示す。例：ぴ。サス。キ pSsaski ひっぱって

○ 促音はすべて、q や Q ではなく具体的な音素で表記する。また、撥音は音韻的に区別する意味がないと判断される場合のみ、音声が n 以外のばあいでも N を使用する。

例：新聞は siNbunna（siNbuN=ja から。siNbuN=na ではない。)、新聞も siNbuN=mai [ʃimbummai]

○ 音調における上昇を［ で、下降を ］でしめす。(アクセントをしめすものではない。)

○ 方言の対訳はできるだけ逐語訳にしてあるので、共通語として不自然なところもある。また、琉球諸語の強調辞 du に対応する tu の訳には機械的にゾをあてている。

以下にトマ・ペラール(2011)「消えてゆく小さな島のことば」（NINJAL フォーラムシリーズ 日本の方言の多様性を守るために）の説明を引用する。

大神方言は宮古の中でもかなり独特で、発音の特徴が目立ちます。その特徴は日本語だけではなく世界の諸言語から見ても非常に珍しいものです。狩俣先生のお話にもありましたが、子音が/p・t・k・m・n・r・v・f・s/の９個しかありません。日本語の共通語や他の宮古方言はだいたい 15 個くらいはあるのですが、この方言には９個しかなく、おそらく日本列島の中で最も少ないと思います。それに「パ・タ・カ」と「バ・ダ・ガ」の区別がありません。濁音がこの方言にはなく、「開けろ」も「上げろ」も、両方とも「アキル」と言って、区別がありません。また珍しいのは子音の連続です。日本語にはなかなか子音の連続がありませんが、この方言にはたくさんあります。たとえば「土」のことを「mta」、「人」は「pstu」、「おでこ」は「ftai」、「二日」は「fkska」、「引っ張る」は「sapsks」と言います。

もっとも珍しいのは次の特徴です。普通の言語では「ア・イ・ウ・エ・オ」などのような母音を中心に単語が構成されるのですが、大神方言はその原理に反します。母音がまったくない、または声帯を振動させて発音される音も一切ない単語があります。たとえば「おっぱい」のことは「kss」、「櫛」は「ff」、「作る」は「kff」と言います。これは非常に珍しい特徴で、私の知っている限りでは世界の中でこのような言語は他に２例しかなく、アジアでは他にありません。言語の一般理論にとっても非常に重要なことばなのです。

（「２例」とは、「モロッコのベルベル・Tashlhiyt 語とカナダの Nuxalk (Bella Coola) 語と Heiltsuk-Oowekyala 語」Nuxalk の a に’。(トマ・ペラール「日本列島の言語の多様性」田窪行則（編）2013『琉球列島の言語と文化――その記録と継承――』東京：くろしお出版，pp.81-92)）

このように、基本的には「子音が/p・t・k・m・n・r・v・f・s/の９個」である。母音については６個の短母音/i・ε・a・o・ u・ɿ/とそれぞれの長母音、それに二重母音 au の計 13 個であるが、すべての組み合わせがあるわけではない。また、実際の発話や文献には v・f の対立もふくめて、いくつか清濁の例がみられる。共通語からの借用が少なくないが、方言語彙とみられる例も存在する。用例のかぎられる音節は（）にいれた。

音節表

i イ	ε /jε エ	a ア		u ウ	ɿ い			
	hε ヘ							
ki キ	kε ケ	ka カ	ko コ	ku ク	kɿ き	kS き。	kF く	
(gi)	gε ゲ	(ga)		(gu)				(gau)
si シ	sε セ	sa サ	(so)	su ス	sɿ し			sau サウ
ri リ	rε レ	ra ラ	(ro)	ru ル				
ti ティ	tε テ	ta タ	to ト	tu トゥ				tau タウ
	(dε)	(da)		(du)				
ni ニ	nε ネ	na ナ	no ノ	nu ヌ				nau ナウ
ci チ				cu ツ				cau ツァウ

fi フィ	fɛ フェ	fa ファ		fu フ				
vi ヴィ	vɛ ヴェ	va ヴァ						
pi ピ	pɛ ペ	pa パ	po ポ	pu プ	pɿ ぴ	pS ぴ。		pau パウ
bi ビ	bɛ ベ	ba バ	(bo)	(bu)				
mi ミ	mɛ メ	ma マ	(mo)	mu ム				mau マウ
		ja ヤ	jo ヨ	ju ユ				
		(kja)	(kjo)					
		(gja)						
	sjɛ シェ	sja シャ	(sjo)	(sju)				
				(rju)				
		(nja)						
		cja チャ	cjo チョ	cju チュ				
				(zju)				
		(bja)	(bja)					
	s	n	f	v	m	N ン		

単語の例

『ウプシ　大神島生活誌』からえられた語彙には［ ］を付した。母音には長短の対立があるが、以下ではまとめてあげておく。

i　itaNtu どこにゾ　ikS いつ　～ka ira:～かなあ。
(j)ɛ　jɛki 駅
a　ara:私は　ami 雨　ata あした　a:ra そと
u　unu この　uma ここ　uta:ɿ いた。(動詞いる過去形)
ɿ　ɿara 鎌　ɿwu 魚　ɿriru 入れろ。　numtaɿ?(なにを)飲んだ？　aɿata 歌わないで
hɛ　hɛku 百
ki　ma:taki 一緒に　kisa さっき　iki 行け。　kitati 違う。別だ。　ki:ja きょうは
kɛ　samarata uɿkɛ 冷めないうちに　kɛ:riN 消えない。　faukɛ:食べるまで　sakiNkSkɛ:酒よりも
ka　ikaN 行かない。　karimai あの人も　karakaripa 辛いから　pi:maka:少ない・少し
ko　tapoko たばこ　imikoppuka:小さいコップ　[ko:nuimmuri 旧暦 3 月以降に潮が大きく引く時期]
ku　uriNkuija これ以上は　skusku なかなか(～ない)　ifku 何歳　ku:来い。
kɿ　kɿnu きのう　kunusakɿ このまえ　taukɿ じょうずだ。　pakɿ:足を　skɿ:切る。
kF　kFfaN 作らない。　kFfi fi:ru 作ってくれ。　kF:作る(人)　kF:mta:作るのが
kS　ikS いつ　kSsi 来て　ffakSsa 鍬は　mkS 道　kakSna かくな。　kS:来る。
gi　k。icigi きれいな　agi あ！
gɛ　gɛNno:玄翁

ga　gakko:学校　tu:atiga:/ti:atiga:それなら
gu　kanagurubo:si 帽子の一種　mukɿgurubo:si 麦藁帽子　[ju:guaki 竜宮開き：祭祀のひとつ]
[gau　anija:gau アニヤーガウ：屋号のひとつ]
si　naupasinu どんな　mi:kSsi 畑３箇所　kamata:si ここまで　aNsi:そう・そのように
sɛ　kSsasɛ:ri 作ってくれ。　mi:ssɛ:N 見ながら　assɛ:N しながら　assɛ:(なにを)する！
sa　saki 酒　sara 皿　asati あさって　akSkassa:(これは)熱いよ。
[so　so:mɛN そうめん]
su　sunasi.殺した。　sumiru(体を)洗え。　sutiru(鶏の卵が)かえる。　ma:su:塩を
sɿ　sɿnikara 死んでから　sɿta:skam 涼しい。　panasɿ 話　masɿ いい。
sau　saukɿ 掃除　saumiN そうめん
ri　pukarikaripa 疲れたから　urikatu これが　karimai あれも　pari:畑を
rɛ　pu:rɛ 同年生　karɛ:あれは　apirɛ:ssuka 呼んだけど　skɿrɛ:ramati 切ってください。
ra　pɛra 帰ろう。　karikara あいつから　murai もらった。　ara:私は
[ro　musuroN 虫送り：祭祀のひとつ　ro:ろうそく]
ru　marukam 短い。　Nkiru 帰れ。　tarumai だれも　pi:ru:ビールを
ci　k。icigi きれいな　uci うち・あいだ　hacigacu ８月
cu　cuzuki 続けろ。　cuke:つぎは　acukɛ:ɿ 預けてある。　cu:kutu つよく・とても
cau　caukaɿ いい。　cau pStu いい人だ。
ti　tiN お金　tati 立て。　amati.編む。(意志)　jakati やがて　ti:じゃあ
tɛ　akatɛ:N 私だけが　ikatɛ:N 行かない。　asatɛ:あさっては　nivtɛ:.寝て！(願望)
ta　taru だれ　aNta 私たち　tinata マガキ貝　manata まな板　katam 蚊
to　imo:to 年下(の女性)だ。　cjo:to:N ちゃんと　[to:つの]　[nitokami 二斗甕]
tu　tuɿ 鳥　jatujum けんか　mitum 女　numitu 飲んだ。　tu:さあ！
tau　taukaɿ いい。良い。　taupuN 良い。だいじょうぶ。　[tau 門]
[dɛ　idɛfuku イデフク：屋号のひとつ]
da　dami だめだ。おいしくない。　dari iɿ 疲れている。
[du　i:sadu イーサドゥ：7 月におこなわれる祭祀のひとつ]
ni　nivvipa 寝れば　nɛ:Nnipa ないから　ani 年上(の女性)だ。　ni:ru 炒める。
nɛ　nɛ:N ない。　pɿaNnɛ:すわりませんか。　anɛ:munu:しょうがない！　jonɛNsɛ:４年生
na　sana 笠　ja:nna 家には　damina おいしくない　m:naka まんなか　muna:ものは
no　tanomati 頼む。(意志)　gɛNno:玄翁　[kinopuja:キノプヤー：屋号のひとつ]
nu　numitu 飲んだ。　kanu あの　kɿnu:きのうは　ma:nu:そんなに・それほど
nau　nauju なにを
fi　ffi 降れ！　ffi 閉めろ。　kFfi 作った。　kai fi:ti 買ってやろう。
fɛ　kFfɛ:ri 作ってくれ。　ffɛ:閉めては(だめ)
fa　ffakSsa 鍬は　ivffa 重くは　fa:こども　fa:N 食べない。
fu　fukuɿ シャコ貝のワタ　fukɛmasukatam うるさかった。　ffuɿ 薬　ffunata カエル
vi　nivvi 寝ろ。　vvi 売った。　kavvitu(帽子を)かぶった。　javvi 壊れた。
vɛ　nivvɛ:寝ては(だめ)　nivvɛ:ri.寝てくれ。

va　vva あなた・おまえ　nivvaN 寝ない。　vvatatam 売らなかった。　va:ta 追わずに
pi　jupi ゆうべ　jusarapi ゆうがた　mmɛpi もっと　pi:maka:すこし　pi:ru ビール
pɛ　pɛri 行け。　pɛɿ 行く。　pɛ:pɛ:はやく　pɛrati=pɛ:m.帰ろうかな。
pa　naupasinu どんな　paNtakam いそがしい。　ivkaripa 重いから　saki:pa:酒をは
po　tapoko たばこ（～tapako）
pu　upukam 広い。　upuupunu 大きな　faupuskam 食べたい。　upu:sa たくさん
pɿ　pɿri 座れ。　pSsapɿja 足の甲　kapɿ 紙　appɿtaɿ 遊んだ。　pɿ:座る。
pau　pausi 棒で
pS　pStukSsi 畑 1 箇所　ujakipStu 金持ち　pSsui ひろえ。　pS:ma ひよこ
bi　biraf かご
bɛ　tarubɛ:タルベー（某男性の愛称）
ba　gaba:大きな　[kɿ:ba 頭髪に刺す装身具のひとつ]
bo　kanagurubo:si 帽子の一種　mukɿgurubo:si 麦藁帽子
[bu　kubusɿmi コブシメ]
mi　numitu 飲んだ。　ami 雨　mikɿ 水　mi:N いない。
mɛ　mɛramati めしあがれ。　mmɛ もう　umɛs 箸　kakumɛ:ɿ つかまえてある。
ma　numati 飲もう。(意志)　mmakam おいしい。　ma:taki いっしょに
mo　imo:to 年下だ。(女性について)
mu　kaɿmunu 買い物　stumuti 朝　murai もらった。　m:mu イモを
mau　mauki ひろった。もうけた。
ja　jaiN やせない。　kɿja 字は　takataijaripa 高いから　ja:mmaka 家の孫・内孫
jo　jokoN 横に　joisjo よいしょ。　jo:よ。(終助辞)　jo:Nna:ゆっくり
ju　jum 読む。　jatujum けんか　ti:ju 手を　mujukSna 動くな。　ju:kɿ 4 歳
kja　Nkjapu（ニギヤブ・個人名：シマナー、ヤーナー）
kjo　bɛNkjo:勉強
[gja　upugjaN タカキビ：作物のひとつ]
sjɛ　sjɛNsjɛ:先生　nasjɛ:ɿ 産んである。(結果相)　kSsjɛ:ɿ 来てある。(結果相)
numatissjɛ:(なにを)飲むの？
sja　imsja 漁師　pa:isja 歯医者　aNsinusjakunna それでも　aNsja:そのようには
sjo　joisjo よいしょ。
[sju　sju:お菜　pasjumizjuki 地名のひとつ]
[rju　rju:guaki 竜宮開き：祭祀のひとつ]
[nja　parafunja アイゴ類の魚の一種]
cja　cjapaN 茶碗　maccja 店　mi:cjaki 見苦しい　cja:nu 茶が
cju　kacju:カツオ　mucju:N 夢中に　cju:gakko:中学校
cjo　cjo:to:N ちゃんと・じょうとうに　soNcjo:村長　sacjo:社長　[cjo:cjo:チョウチョ]
[zju　pasjumizjuki 地名のひとつ　maNzju:パパイヤ]
[bja　tubjaN 追い込み漁で使用する網の一種　babja イスズミ科の魚の一種]
s　stumuti 朝　nas pakɿ 生むはずだ。　ukumtu s 埋める。　tauri s 倒れる。
n　nnama いま　ntika どれが　in イヌ　sun kumata 死ぬ。　suntɛ:死んで！

f　ffaN 降らない。　biraf かご　tauf 元気に　icuf いとこ　f: kata 降りそうだ。
v　vva あなた　vvatɛ:N 売らない。　niv kata 寝そうだ。　ivkam 重い。　javvi 壊れた。
m　mma 母親　mmiN 熟さない。　ikɛ:mnu むかしの　pikitum 男　m:na みんな　katam:蚊に
N　ftuN 布団　siNbuN 新聞　ja:Nkai 家へ　gɛNno:玄翁

８　名詞の格形式

大神方言の名詞の格形式には、ハダカ格（ϕ格）、ka 格、nu 格、ju 格、N 格、Nkai 格、Nki 格、si 格、N(:)si 格、sui 格、tu 格、kara 格、kami 格、ta:si 格がある。子音おわり名詞（蚊：katam）のおもな語形をあげる。

katam=nu=tu] sasi. 蚊がゾ刺した。katammu=tu] kurusi. 蚊をゾ殺した。（＜katam=ju=tu)、katam:=tu] ffai.蚊にゾ食われた。（＜katam=N=tu）（参考：katam]ma [mi:N.蚊はいない。＜katam=ja）

順に意味用法と例をあげる。

8．1　ハダカ格（ϕ格）

名詞のハダカ格は文の部分として、主語、補語（対象語、目的語)、修飾語、状況語、独立語として使用される。また主題をあらわしたり、並立の要素になったりもする。

8．1．1　主語

〇ひと主語

mma] ata=Nkai to:kjo:=N[kai fa:=u] mi:=[ka] ikS kumata. かあさん(は)あしたに東京へ子どもを見にいく予定だ。

vva] ki:=ja saki:=pa nu[ma]ti? あなた(は)きょうは酒をは飲む？

vva] ju[pɛ:] i[ta=N=tu uta]:ŋ? あなた(は)ゆうべはどこにゾいた？

一人称単数では、ハダカ格：anu、ka 格：aka、ja とりたて形：ara:のようにすべて語形がことなるが、二人称単数では、ハダカ格と ja とりたて形がともに vva となるようで、音声的にはその区別が困難である。

〇もの主語

u[ma: im]=nu maika:=jari[pa ɻwu mmaka]m. ここは海が近いので、魚(が)うまい。

[unu ɻara taro:=ka [mu]nu? この鎌、太郎のもの？

8．1．2　補語

補語はことがらの成立に参加する主語以外のメンバー（広義のモノ）である。このうちハダカ格があらわせるのは直接補語の用法であるが、直接補語自体は基本的にはハダカ格ではなく対格によってあらわされる。

ffuɻ] numata[ka:] nauraN.薬(を)飲まないと治らない。

ffuɻ=wu] numi.薬を飲め。

vva cja:] nu[ma]ti? あなた、お茶飲む？
　cja:=u=tu] numi.お茶をゾ飲んだ。
s。ikeN na:]sis。iti:=tu u[ti. 試験(を)やってゾ落ちた。

8．1．3　修飾語
　量や程度をあらわす。ようすの用例はみられなかった。
m[:na] pɿ[ri i]ri. みんなすわっていろ。

8．1．4　状況語
　できことが成立する＜とき＞をあらわす。
ki:] assu. きょうやれ。
kɿnu] m[pɛ:i]tatam. きのう(は)我慢できなかった。
nnama u]kitɛ:N. いま(は)起きない。(意志)
kunusa[kɿ] itɛ uta:ɿ pStu=nu=tu [zjo:to:]=jata:ɿ. このまえ会った人がゾよかった。
amɛ: ikS] ffati=ka [i]ra:.　雨はいつ降るかなあ。

8．1．5　独立語（呼びかけ）
　代名詞二人称単数の例（勧誘）のみで、固有名詞では未確認。
kju:]=ja v[va ma:taki] saki: numati. きょうはあなた、いっしょに酒を飲もう。
vva pi:ru: numa]ti. [saki: numa]ti. あなた、ビールを飲もうか。酒を飲もうか。

8．1．6　主題
　この例は、文の成分としては対格相当の補語であるが、文頭におかれて主題になっている。一般人称なので主語はないが、主題と述語動詞は隣接していない。
unu ffuɿ munu fau atu=N=tu num]? この薬、もの食べるあと（食後）にゾ飲むの？

8．1．7　ならべ
taro:　ziro:　anu　vva 太郎、次郎、私、あなた

8．1．8　述語
　格の用法ではないが、名詞は述語に使用されるとき、過去形ではコピュラ jata:ɿ（だった）をともなうが、非過去ではハダカ形であらわれるのが基本である。
cu[kɛ:] anu. つぎは私だ。ツは無声化しない。
kama]=nu=[tu] jakuba. あそこがゾ役場だ。b は破裂が弱く p に近い。
v[vata=ka] munu. あなたたちのものだ。
imi=pS]tu=ka:. 小さい人だよ。
u[pu]=in. 大きな犬だ。
　さいごの 2 例は、語構成的には 1 単語（形容詞語幹＋名詞）とみるべきだろうが、かざりに対して程度の修飾（masari）が可能である点で、2 単語的でもあるといえる。
karɛ:] masari upu=pStu.あの人はもっと大きい人だ。

疑問詞の有無にかかわらず、たずねる文の述語になる。
[unu ɿara taroː=ka ɿ[a]ra? この鎌は太郎の鎌か？
kiː=ja naupasi=nu pSka]kɿ? きょうはどういう日？
[taːta=ka munu]? だれたちのもの？

8．1．9　くみあわせ動詞の要素
・～をする（si、asi、nasi）
ka[N]poː [si]=tu uɿ. 風邪(を)ひいてゾいる。風邪してゾいる。(感冒)
aNta=ka] ɿaː goː[zjuːnɛN]=mai=taː[sjɛː] [isja a]si=tu utaːɿ. うちのおとうさんは 50 年前までは医者(を)してゾいた。
s。ikɛN naː]si=s。itiː=tu u[ti] nɛːN. 試験(を)やってゾ落ちてしまった。
・～になる
mmɛ] jusara[pi] nari uri[pa] ika[ti]=pɛːm. もう夕方(に)なったから帰ろうかな。
saNzi] naruti=[kaː] pɛri. 3 時(に)なってから帰れ。
assu] munaː [nɛːN ftu] nari. することはないこと(に)なった。
mmɛ kuːN ftu] nari uɿ. もう来ないこと(に)なっている。もう来なくなっている。

8．2　ka 格　主格=連体格 1

共通語のガ格、ノ格に対応する。基本的には ka であらわれるが、ときに ga でもあらわれる。文の部分としては主語、規定語（連体修飾語）になる。人称代名詞、ひと固有名詞、指示代名詞、疑問詞が主語や規定語になるときにはこの形をとる。tu とりたて形になっても ka はたもたれる。
8．2．1　主語
〇人称代名詞
・一人称
a[ga vva]=pa [ɿa]ti. 私があなたをしかるよ。
＜状況語節の主語＞
aka] aɿata uɿ[kɛː] vva=ka aɿri. 私が言わないうちにあなたが言え。
・二人称
v[va=ka taf]kɛː=si assu. おまえが一人でやれ。
・三人称
ka[ri=ka=tu] urusi. あの人がゾ下ろした。
＜状況語節の主語＞
u[ri=ka] fau[kɛ]=taː[sjɛː fau]na. この人が食べるまでは食べるな。
〇ひと固有名詞
ziroː]=ka=[tu] taroː=ju saːri pɛri. 次郎がゾ太郎を連れていった。
＜状況語節の主語＞
taroː=ka] kuː=tauɿ[kɛ] kuː. 太郎が来ないうちに来い。
〇指示代名詞

・ku 系
kuri=ka=tu] mmakaɿ. これがゾおいしい。
・u 系
u[ri]=ka=tu m[makam]=pakɿ [ira]:. これがゾおいしそうだねえ。
・ka 系
kari]=ka=[tu] jakuba. あれがゾ役場だ。b は破裂が弱く p に近い。
〇疑問詞
nti]=ka=tu m[ma]kaɿ=ka [i]ra:. どれがゾおいしいかなあ。
ja:=nna nti=ka=tu] aɿ=ka [i]ra:. 家にはどれがゾあるかなあ。

8．2．2　規定語

ひとをあらわす代名詞や固有名詞が基本で、質規定ドンナに対する関係規定ドノの用法にかぎられる。

〇人称代名詞
・一人称
a[ka] munu=[mai] uri=[tu] junu=sui. 私のものもこれとおなじだ。
aNta=ka] u[puɿ]a: [saki:=mai] numaN. [tapoko:=mai] fkaN. うち(私たち)のじいさんは酒ものまない。たばこものまない。
・二人称
n[ti]=ka=[tu vva=ka sa]na?　どれがゾおまえの笠？
v[vata=ka] munu. あなたたちのものだ。
・三人称
karita=ka] fta:ɿ=[ga] mmɛ jakati [mi:tu=N] naɿ kumata. 彼らの二人がもうやがて夫婦になるよ。
・疑問称
[ta:=ka munu]? だれのもの？
[ta:ta=ka munu]? だれたちのもの？
・ひと固有名詞
[unu ɿara taro:=ka ɿ[a]ra? この鎌、太郎の鎌？
・ときの状況語
ki:=ka] ma:su=[N] assu. きょうのうちにやれ。
（kɨnuɡ゜a ju:（昨晩）kɨnu nu ju:ともいう。（『琉球の方言』1977 p.63））

8．3　nu 格　主格=連体格 2

共通語のガ格、ノ格に対応する。基本的には nu であるが、これの tu とりたて形では N であらわれることもある。人称代名詞、ひと固有名詞、指示代名詞、疑問詞以外の名詞がこの格になる。

8．3．1　主語
〇ひと名詞

kutu=tu icuf=nu cjuːgakkoː=nu siNsiː]=N [nari. 去年ゾいとこが中学校の先生になった。
・nu 格の tu とりたて形
ka[ma=nna] faː=nu=tu [ap]pi uɿ. あそこでは子どもが遊んでいる。
＜規定語節の主語＞
isja=nu] turas[taɿ]／fiː[taɿ] ffuɿ[u] numti[kaː] na[u]ɿ=tu su. 医者がくれた薬を飲めば、なおりゾする。
〇その他の名詞
jupi=tu ami=nu] ffɛːɿ. ゆうべゾ雨が降ったようだ。降ってある。(結果相)
hana[koː] mma=Nsi=[tu] mipana=nu [ni]ti iɿ. 花子はかあさんにゾ顔が似ている。
・nu 格の tu とりたて形
imi=a]mi=kaː=nu=[tu] ffi iɿ. 小雨がゾ降っている。
tiː=nu=tu] jamkataɿ. 手がゾ痛かった。
nti=nu] kaːsu=N=tu mmakaɿ=ka [i]raː. どのお菓子がゾおいしいかな。
unu] pSkakɿ=nu=[tu] zjoːtoː. この日にちがゾいい。カレンダーを見て。
kari=ka kStaɿ] paː=nu=[tu] zjoːtoː. あの人が来た時がゾいい。
＜従属節の主語＞
kɿnuː] ka[ti=nu] usi iri=[tu] funɛː [kuː]tataɿ. きのうは風が吹いていたからゾ、船は来なかった。
unu niː=nu ivkaripa futaːɿ=si muti kS[taɿ. この荷物が重かったので、二人で持ってきた。
ka[namaɿ=nu] jamkaripa=tu ju[kui] utaːɿ. 頭が痛いからゾ、休んだよ。
・nu 格の tɛːN とりたて形
saki=nu=[tɛːN] aɿ]ti[kaː na]u=[mai] iraN. 酒がだけあれば、なにもいらない。
＜規定語節の主語＞
ami=nu] fː paː=n[na] u[pu]m[maː] tɛrɛbiː=tɛːN=[tu] miː uɿ. 雨の降るときには、ばあさんはテレビをだけゾ見ている。
kanu miː]=nu u[puupu=nu ssu pikitu]m[ma ta]ru? あの目の大きい、(色の)白い男はだれ？
im=[nu] mai[kaɿ] t。ukuma=nu=[tu tau]kaɿ. 海の近いところがゾいい。
＜受動文の主語＞
iskakɿ=nu=[tu] kumai uɿ. 石垣がゾ組まれている。

8．3．2　規定語
〇関係規定
ziroː=ja ututu=nu saburoː=sui=[tu] jatujum[mu] asi. 次郎は弟の三郎とゾけんかをした。
mkS=nu] mːnakao [aɿ]kS[na. 道のまんなかを歩くな。
kama=[nu] pari=taː[si] aɿkaː. あそこの畑まで歩こう。
nnama=nu] kɿpun[na] a[mɛː] ffaN. いまの時期は雨は降らない。
kiː=nu] tɛrɛbɛː umussuffa nɛːNni[pa] mi]ːtɛːN. きょうのテレビはおもしろくはないから見ない。
〇質規定

ɿwu]=juː=[mai] ikɿmusu=nu miu=nu=tu mmakam. 魚よりも動物の肉がゾおいしい。（魚に対する肉の方言はない。ikɿmusu は動物。miu は肉全般。）
araː taku=nu] namassu=tu [fau]puskam. おれはタコの刺身をゾ食べたい。
jaːu=nu] paː=n[na] upumma=mai=tu [pu]turi. お祝いのときにはばあさんもゾおどった。

8．4　ju 格　対格

共通語のヲ格に対応する。名詞末の音によって語形が変わるので、１．形態、２．意味用法の順にのべる。

8．4．1　語形のタイプ（膠着か融合か）

長母音と二重母音おわりの名詞には ju～u が膠着する。ɿ 以外の短母音おわりの名詞では ju との融合がおこる。また子音おわりの名詞では子音が重複して母音 u でおわる。

○長母音　～Vː＋ju　＞　～Vː=ju

・～iː＋ju

u[nu] niː=[ju jaː]=taː[si] katami i[ki] fiːru. この荷物を家までかついで行ってくれ。
tiː=ju] sumiru. 手を洗え。

・～aː＋ju

cjaː=ju=[uɿ] saki=nu=tu masɿ.茶をより酒がいい。
mma] ata=Nkai toːkjoː=N[kai faː=u] miː=[ka] ikS kumata. かあさん(は)あしたに東京に子どもを見にいく（予定だ)。

・～oː＋ju

ka[N]poː=ju [si]=tu uɿ. 風邪をひいてゾいる。感冒をしてゾいる。
ta[roː=ju saː]ri kuː. 太郎を連れてこい。

・～ɿː＋ju

kɿː]=ju=[tu] kaki iɿ. 字をゾ書いている。
kɿː=[u] kakati. 字を書く。書こう。意志

○二重母音　～V_1v_2＋ju

[vva nau=ju numati]? あなた、なにを飲む？
nau]=ju=[tu kaki iɿ? なにをゾ書いている？

動名詞(格語形になる)～名動詞(格支配をする)の例をあげておく。

pa[riː] sau=[u] jukui. 畑をするのを休め。スルヲ
mu[nuː] fau=ju [na]mari. ものを食べるのをやめろ。スルヲ
mu[nuː] fau=ju=[paː na]mari. ものを食べるのをはやめろ。スルヲバ

このように、さきだつ名詞に対しては対格で格支配して動詞的にふるまいながら、つづく動詞に対しては対格となって名詞的にふるまう。入れ子構造か。

以下は、形式名詞による名詞化の例である。

ka[kɿ] munuː [na]mari. 書くのをやめろ。
fau] munuː=[paː na]mari. 食べるのをはやめろ。

○短母音　～CV＋ju　＞　いろいろ

・～i＋ju　＞　～iː（i=i ではない）

pa[ri:] sau=u=[pa: juku]i. 畑をするのを休め。
sa[ki:] numi. 酒を飲め。
u[ri:]=pa: [ka:]ti. これをは買う。意志
u[nu] uwagi:=[du] ukɿna:=N nisjɛNɛN=si kau[taɿ. この上着をゾ沖縄で二千円で買った。
・～a＋ju　＞　～au（a=u ではない）
kazuko=[tu] junu=Nsi=[nu] astau hanako=N=mai [kai] fi:ti. 和子とおなじ下駄を花子にもかってやろう。
minaka]u saukɿ assu. 庭を掃除しろ。
uma=nu] sakau [nu]uri. ここの坂をのぼれ。
astau] humi] mi:ru. 下駄をはいてみろ。
・～u＋ju　＞　～u:（u=u ではない）
pa[ri:] sau munu: namari. 畑をするのをやめろ。
pakɿ:=[tu] jamasi=tu ju[kui] uta:ɿ. 足をゾ病んでゾ休んでいた。病ませゾ？
pi:ru:] numa[ti]=pɛ:m. [saki:] numa[ti]=pɛ:m. ビールを飲もうかな。酒を飲もうかな。
cukɛ: taru: sa:ri ika]ti? つぎはだれを連れていこうか？
・～ɿ＋ju　＞　～ɿ=wu、～ɿ=ju、～ɿ:
kapɿ=wu] pSsui.紙をひろえ。
ɿ[wu]kSsuma:ɿ=ju=[tu] asi iɿ.魚釣り仕事をゾしている。
pu[kari]karɛ: mi[kɿ:] numa. 疲れたから水を飲もう。
○子音　～C＋ju　＞　～CCu
・～f＋ju　＞　～ffu
biraffu=[tu] kFfi. かごをゾ作った。
・～m＋ju　＞　～mmu（m=mu ではない）
ziro:=ja ututu=nu saburo:=sui=[tu] jatujum[mu] asi. 次郎は弟の三郎とゾけんかをした。
　動名詞～名動詞
　sa[ki:] nummu=[pa: na]mari. 酒を飲むのをはやめろ。スルヲバ
・～N＋ju　＞　～nnu（n=nu や N=nu ではない）
icuf=nu=tu] ja:=nu wa:pu=N ftunnu [pu]sjɛ:ɿ.いとこがゾ家の屋根に布団を干してある。
unu] hunnu jumi. この本を読め。
・～s＋ju　＞　～ssu（s=su ではない）
ara: taku=nu] namassu=tu [fau]puskam. おれはタコの刺身をゾ食べたい。
u[nu] mkSsu=ka[ra] aɿki.この道をから歩け。
　動名詞～名動詞
　pa[ri:] assu=[pa:] namari. 畑をする(の)をはやめろ。スルヲバ
　kɿ:] kakSsu [na]mari. 字を書く(の)をやめろ。スルヲ
○～jupa:
　ヲバに対応する。とりたて的か。pa:があると、より強める感じになる。
・～(j)u=pa:
aNta=ka] mma[ka:] maNzju:=ju=[pa: ka:]=u=tɛ:N=tu [fau. うちの孫はまんじゅうをは皮をだけゾ食べる。

vva] unu ɿwu=nu na:=u=pa: s。isi=[tu uɿ? おまえはこの魚の名まえをは知ってゾいるか。
・～V:=pa:
u[nu] mikɿ:=[pa:] numna. その水をは飲むな。
uri:pa:] stiNna.これをは捨てるな。
・～nnu=pa:
a[ra:] kɿnu: siNbunnu=[pa: [ju]matatam. おれはきのうは新聞をは読まなかった。
・～mmu=pa:
ara:] m:]mu=[pa: [fa:N. おれはさつまいもをは食べないぞ。
・～ssu=pa:
u[nu] panassu=[pa:] tukɿ=N=tɛ:N=[tu] ssasi. その話をは妻にだけゾ聞かせた。
○～pa:
　以下の 2 例目以降はユ対格形の長音をききもらしていることもかんがえられるが、少なくともはじめの例は pa:のまえが無声化しているので、対格形とみるよりはハダカ形のこの形とみるのが妥当だろう。
i[cuf[fa] ɛ:go=no [si]mkS=pa: [ju]m=tu [su. いとこは英語の本をは読みゾする。
fau] munu=pa: [m:na]=tu [fai. 食べるものをはぜんぶゾ食べた。
aN[sinu] munu=[pa] taru=[mai] k。akaN. そんなものをはだれも書かない。
u[ri=pa:] fa:tɛ:N. ku[ri=pa:] fa:ti. これをは食べない。これをは食べる。私は。

8．4．2　意味用法
　直接補語になる。
○動作の直接的な対象をあらわす
・はたらきかけをうける対象
u[nu] ni:=[ju ja:]=ta:[si] katami i[ki] fi:ru. この荷物を家までかついで行ってくれ。
ti:=ju] sumi ku:. 手を洗ってこい。
sata=N] ma:[su: su]iru. 砂糖に塩を混ぜろ。
icuf=nu=tu] ja:=nu pana=N／wa:pu=N ftunnu [pu]sjɛ:ɿ. いとこがゾ家の屋根に布団を干してある。
astau] humi] mi:ru. 下駄をはいてみろ。
・つくりだす対象
kɿ:]=ju=[tu] kaki iɿ. 字をゾ書いている。
biraffu=[tu] kFfi. かごをゾ作った。
tukɿ=N] ju:ɿu=[pa:] kFfasi. 妻に夕飯をは作らせる。
・やりとりする対象
u[nu] uwagi:=[du] ukɿna:=N nisjɛNɛN=si kau[taɿ. この上着をゾ沖縄で二千円で買った。
kazuko=[tu] junu=Nsi=[nu] astau hanako=N=mai [kai] fi:ti. 和子とおなじ下駄を花子にも買ってやろう。
uri=[pa:] taro:=ka=tu [fi:. これをは太郎がゾくれたよ／やったよ。
・知覚・認識活動の対象
mma] ata=Nkai to:kjo:=N[kai fa:=u] mi:=[ka] ikS kumata. かあさん(は)あしたに東京へ

子どもを見にいく（予定だ）。
ami=nu] f: pa:=n[na] u[pu]=m[ma:] tεrεbi:=tε:N=[tu] mi: uɿ. 雨が降るときには、ばあさんはテレビをだけゾ見ている。
uri=[pa:] ju[kε:] nε:N. これをはあまり好きじゃない。人もものも。否定のみか。
vva] unu ɿwu=nu na:=u=pa: s。isi=[tu uɿ? おまえ(は)この魚の名まえをは知ってゾいるか？
・言語・思考活動の対象
unu] hunnu jumi. この本を読め。
a[ra:] kɿnu: siNbunnu=[pa: [ju]matatam. おれはきのうは新聞をは読まなかった。
u[nu] panassu=[pa:] tukɿ=N=tε:N=[tu] ssasi. その話をは妻にだけゾ聞かせた。
[uNnu] pS:su passiNna. その時の日を忘れるな。
・再帰的　～を病む（病ます？）
pakɿ:=[tu] jamasi=tu ju[kui] uta:ɿ. 足をゾ病んでゾ休んでいた。
ti:]=ju=[tu] jamasi ju[kui] uta:ɿ. 手をゾ病んで休んでいた。
〇動作のかかわる場所
・とおりゆく場所
uma=nu] sakau [nuuri] mi:ru. ここの坂をのぼってみな。
mkS=nu] m:nakao [aɿ]kɿ[na. 道のまんなかを歩くな。
〇形式的な意味をあらわす動詞とくみあわさって実質的な内容をになう
・具体名詞（動作名詞）
ziro:=ja ututu=nu saburo:=sui=[tu] jatujum[mu] asi. 次郎は弟の三郎とゾけんかをした。
skamau] assu. 仕事をしろ。
ka[N]po:=ju [si]=tu uɿ. 風邪をひいてゾいる。感冒をしてゾいる。
・動名詞(格語形になる)？～名動詞(格支配をする)？
　kɿ:] kakSsu [na]mari. 字を書く(の)をやめろ。スルヲ
　pa[ri:] sauu=[pa: juku]i. 畑をする(の)をは休め。スルヲバ
　sa[ki:] nummu=[pa: na]mari. 酒を飲む(の)をはやめろ。スルヲバ

8. 5　N 格　与格

ni を出自とするとみられるが、～ni であらわれることはない。～N おわりの名詞もそれに N がついて、N：となる。
urε: ikS=tε:] nε:[ta:] itiN. [kɿpu]N:=[tu] iti iɿ. これ（お化け）はいつとはなしには出ない。(決まった)時間帯（時分）にゾ出ている。いつでも出るわけではない。
pari:] asuN:=[tu zjo:]to:. 畑をやるのにゾいい。
　この方言では、共通語のデ格があらわす意味を N 格や si 格がになっているが、このうち道具や手段、動作のおこなわれる場所などの意味を N 格がになっている。道具や手段の意味では si 格と連続し、動作のおこなわれる場所の意味では移動の有無で Nki 格とすみわける。共通語のデ格にちょくせつ対応する格形式はない。

8．5．1　間接補語

〇やりとりのあいて

u[riː=paː] taroː=N [fiː]ru. これをは太郎にやって。あげて。依頼

kazuko=[tu] junu=Nsi=[nu] astau hanako=Nmai [kai] fiːti. 和子とおなじ下駄を花子にも買ってやろう。

〇道具、手段

u[nu] sara=N fai. この皿で食べろ。（これをシ格=具格にすると、器の意味ではなく、まさに皿ですくうという道具になる）

u[nu] makaɻ=N fai. このお椀で食べろ。

u[ma]=N u[ri]=N u[riː] fai. ここで(場所)これで(道具=器)これを食べろ。

〇受動や使役の対象=動作の主体

・受動文の動作の主体

saburoː=ja ziroː=N=[tu] pau=si tatakai. 三郎は次郎にゾ棒でなぐられた。

ziroː=ja] upuɻa=N=[tu] tatakai／ɻai. 次郎はじいさんにゾたたかれた／しかられた。

m[ma=N=tu] ɻai. お母さんにゾしかられた。×ンカイ

・使役文の動作の主体

tukɻ=N] juːɻu=[paː] kFfasi. 妻に夕飯を作らせる。

kari=N] asumiru. あの人にやらせろ。×ンカイ

・使役やりもらい文の動作の主体

hanakuː] m[ma]=N=[tu] munuː [fiː]sumirari[ta]ɻ. 花子はかあさんにゾごはんを食べさせてもらった。（食べさせられた）

kɻnuː] uri=N=tu munuː [fiː]sumiraritaɻ.きのうあの人にゾものを食べさせてもらった。

〇能力のもちぬし

v[va=nna urɛː] faːi=[tu] su? あなたにはこれは食べられゾする？

a[nu=nna mmɛ nu]maiN. 私にはもう飲めない。

ja[rapi=nna ka]kaiN. 子どもには書けない。

〇ありか

・ある

jaː=nna nti=ka=tu] aɻ=ka [i]raː. 家にはどれがゾあるかなあ。

ka[ma=N=mai=tu] pari=nu aɻ. あそこにもゾ畑があるよ。

・ない

aNsinu] munaː [jaː=nna nɛːN]=pakɻ. こういうものは家にはないと思う。

u[ma=nna] nɛːN. ここにはないよ。

・いる

saNzi]=taːsi [uma=N] uri. ３時までここにいろ。

・いない

karɛː] jaː=nna [miːN? あいつは家にいない？

・設置場所=ありか

icuf=nu=tu] jaː=nu pana=N／waːpu=N ftunnu [pu]sjɛːɻ. いとこがゾ家の屋根のうえに布団を干してある。

○くっつくところ
ti:=N=tu] naukara:=nu=[tu ta]pari iɳ. 手にゾなにかがゾついている。
sata=N] ma:[su: su]iru. 砂糖に塩を混ぜろ。
○移動先
・ひとの移動先
u[ma=N k。isi ap]pi. ここに来て遊べ。
ata=[mai] uma=N [k。isi] numi. あしたもここに来て飲め。
uma=N] k。isi iri. ここに来ていろ。
uma]=N puri. ここにしゃがめ／すわれ。
　ン格が移動先の意味に使用されるのは、くみあわさる動詞が述語になる用法ではなく、状況=修飾的な用法のみのようである。上の３例目は動詞が述語として使用されているが、アスペクト形式なので移動動作というより存在的ということか。ンカイ格のほうはそのどちらにも使用される。
　　uma=N]kai [ku:. ここに来い。×uma=N ku:.
　　kama=Nkai] pɛri/iki. あそこに行け。×kama=N pɛri/iki.
・ものの移動先
u[ma=N] uski. ここに置け。
u[ma=nna] uskɻna. [kama]=N／[kama]=N[kai] uski. ここには置くな。あそこに置け。
○出現する場所
ka[ma=nna] makɻmunu=tu [iti]ɻ. あそこにはお化けがゾ出る。
○結果やようす
siNgo:=ja] au=N=tu nari. 信号は青にゾなった。○Nkai
jo[ko=N] nara]pi[ru. 横に並べろ。ものを。Nkai 格のほうがよりいい。
u[ri:] saNka[ku=N] skuri. これを三角に切れ。×Nkai
ka[ri=sui] mi:tu=N [naɻ]puskam. あの人と夫婦になりたい。×Nkai
sa[cjo:=N=tu] nari. 社長にゾなった。×Nkai
○Nkai 格の基準とは違いがあるようにみえる。
ɻa]=N=[tu] niti iɳ. おとうさんにゾ似ている。Nkai は変。
u[rɛ:] pari: as pa:=nna [da]mi. これは畑をやるときにはダメだ。使えない。
○動名詞／名動詞が評価的な意味をあらわす形容詞とくみあわさって実質的な内容をになう。
pari:] asuN:=[tu zjo:]to:. 畑をやるのにゾいい。

8．5．2　状況語
○動作のおこなわれる場所
　移動の有無にかかわらないが、うえにのべたように移動動詞とは共起しない。
nakata]=N fa:. 台所で食べよう。台所にいて。移動なし。
pari=N] mati i]ri. 畑で待っていろ。畑にいて。移動なし。
pari=N] assu. 畑でやれ。ここは家。移動あり。
jozi=kami] jɛki=N mati] iri. ４時まで駅でまっていろ。移動あり。

ka[ma=nna] jarapi=nu=tu [ap]pi uɿ. あそこでは子どもがゾ遊んでいる。
n[ta=N] faːti=ka [i]raː. どこで食べようか。
u[ma]=N fai. ここで食べろ。
〇動作のおこなわれるとき（後述する Nkai 格とはことなり、テンスには無関係）
　共通語とおなじように、日や時刻など、時間のレベルによって、ある程度ハダカ格との住み分けがある。
jaːu=nu] paː=n[na] upumma=mai=tu [pu]turi. お祝いのときにはばあさんもゾおどった。
kiː]=ja [naNzi=N=[tu] jaː=Nkai? きょうは何時にゾ家に(帰ろうか)？
urɛː ikS=tɛː] nɛː[taː] itiN. [kɿpu]Nː=[tu] iti iɿ. これはいつとはなしには出ない。（お化けは）決まった時間帯にゾ出ている。(kɿpuN=N=tu 時分にゾ)

8．6　Nkai 格　方向格　＜動詞ムカイ？

　つぎの例の im=[kai は、m のあとで Nkai の撥音が脱落したようにもみえる。
araː] im=[kai] ikati. 私は海に行く。
　ふつうの発話ではンが聞こえにくいが、ゆっくりていねいに話すと、ンがあらわれるので、意識としてはあきらかに発話している。自然な発話では、ンは 0～0.5 程度。つぎの例でも、NN＞Nːは 2 拍分はなく、1.5 拍程度である。
s。ikɛN=Nkai=tu tu]ːri. 試験にゾとおった。受かった。
　Nkai 格は、ことなる意味で複数箇所にあらわれうる。（とき、行き先、目的）
kaːcjan[na] maccja=Nkai=[tu kaɿ]munu=N[kai ikS]taɿ. かあさんは市場へゾ買物に行った。
mma] ata=Nkai toːkjoː=N[kai faː=u] miː=[ka] ikS kumata. かあさんはあしたに 東京に子どもを見にいく（予定だ)。
　N 格にはみられない連体形がある。
[oːsaka=kara toːkjoː=Nkai=nu uNcunna nau=nu pu]sa? 大阪から東京への運賃はいくら(だろう)か？
　この格の使用には基本的にはなんらかの方向性が必要なようである。存在的な「車に乗っていろ」では Nkai 格が不自然で、方向性のある「車に乗れ」ではぎゃくに N 格が不自然になる。
kuruma=N] nuuri iri.。車に乗っていろ。方向性ナシ～弱い。
kuruma=Nkai] nuuri.。車に乗れ。方向性アリ。

8．6．1　間接補語
〇くっつくところ
tiː=Nkai=tu] naukaraː=nu [ta]pari iɿ. 手にゾなにかがついている。
sata=Nkai] maː[suː suːiru. 砂糖に塩を混ぜろ。
〇移動の到着点
・ひとの移動
mma] ata=Nkai toːkjoː=N[kai faː=u] miː=[ka] ikS kumata. かあさんはあしたに東京へ

子どもを見にいく（予定だ）。
a[ta: p。isa]ra=N[kai ika]ti. あしたは平良に行く。意志。
nakata=N[ka]i iki. 台所に行け。
v[va] a:ra=Nka]i iki. あなたは外に行け。
　＜行く＞の方向だけでなく、＜来る＞の方向にも使用される。
u[ma=Nkai=ja] kS:na. ここには来るな。
a[ra:] mmɛ uma=Nkai=ja [ku:]tɛ:N. 私はもうここには来ない。
　単純に行き先のみで意志や勧誘のばあい、述語動詞が省略される。ややぶっきらぼうな表現になる。
a[ta: i]m=kai. あしたは海に（行く）。意志
a[ta: p。isa]ra=N[kai. あしたは平良に（行く）。意志
tu: m]mɛ ja:=N[ka]i. さあ、もう家に（帰ろう）。勧誘
・ものの移動
u[ma=Nkai] uski. ここに置け。
u[ma=Nkai=ja] uskuna. ここには置くな。
u[nu] fkuru=Nkai ɿriru. この袋に入れろ。×N 格
○移動動作の目的
ka:cjan[na] maccja=Nkai=[tu kaɿ]munu=N[kai ikS]taɿ. かあさんは市場へゾ買物に行った。
skama=Nkai=tu] pɛri. 仕事にゾ行った。おとうさんは？と聞かれて。×N 格
○心のむかう対象
u[nu] fa:=[ja gɛ:mu=Nkai=[tu] mucju:=N nari iɿ. この子どもはゲームにゾ夢中になっている。N 格でも通じるが少し変。
v[va=Nkai=tu] saNsɛi. あなたにゾ賛成だ。セはやや口蓋化。×N 格
○成就の対象
taikaku=Nkai=[tu tu]:ri. 大学にゾ受かった。とおった。×N 格
s。ikɛN=Nkai=tu tu]:ri. 試験にゾとおった。
tiN=mau]ki=Nkai=[tu sippai] a[si. 金儲けにゾ失敗した。×N 格
○結果やようす
siNgo:=ja] au=Nkai=tu] nari. 信号は青にゾなった。
jo[ko=Nkai] nara]pi[ru. 横に並べろ。ものを。
m:na=si] jo[ko=Nkai] nara[pi. みんなで横に並ぼう。
○基準　　ン格の基準とは違いがありそうだ。
im=N[kai] maikaɿ t。ukuma=nu=[tu tau]kaɿ. 海に近いところがゾいい。
u[rɛ:] skama=Nkai=[tu] zjo:to:. これは仕事にゾいい。役に立つ。×N 格

8．6．2　状況語
○動作のおこなわれるとき（伊良部方言にみられるような、予定変更的な意味はない。）
　未来のときをあらわす。
a[ta=Nkai] muti ikati. あしたに持っていく。

ata:] ikaiN. a[sati=Nka]i ikati. あしたは行けない。あさってに行く。
a[tu=Nkai] muti ikati. あとで持っていくよ。
おなじ未来でも、ata（あした）、asati（あさって）、jusarapi（ゆうがた）、pSsma（昼）、atu（あとで）など、明確にはなれた未来では Nkai の使用が可能だが、その時間のなかにふくまれる ki:（きょう）や直後の nnama（いま）、それに 5 時などの時刻には使用できない。朝することをおなじ朝にいうことはできない。このようなばあいは N 格が使用される。

ki:]=ja [naNzi=N=[tu] ja:=Nkai? きょうは何時にゾ家に（帰ろうか）？
gozi=N] ukiru. 5 時に起きろ。
stumuti] muti ku:ti. a[ka. 朝持っていくよ。私が。（あなたの家に。電話で）

8. 7　Nki 格　＜動詞イキからか？

動作のおこなわれる場所をあらわす。ただし、その場所はココからはなれた場所である。
kama]=Nki fai. むこうで食べろ。ここにいる人に。
kama=Nkɛ:] fauna. むこうでは食べるな。ここにいる人に。
pari=Nki=tu] assu. 畑でゾしろ。ここにいる人に。
n[ta=Nki] fa:ti=ka [i]ra:. どこで食べようかな。意志
nakata]=Nki fa:. 台所で食べよう。勧誘。
ti:] gakko:=N[ki appa. さあ、学校で遊ぼう。勧誘。

8. 8　si 格　具格　＜動詞シからか？

材料や原料、道具や手段の意味で使用される。おなじ道具でも、食事のときの器の「皿で食べる」と「箸で食べる」とは区別され、前者には N 格が、後者には si 格が使用される。より詳細な分析が必要である。
〇材料、原料
saki:=pa: [maɻ]=si=tu [kFfi:ɻ. 酒をは米でゾ作る。（作っている）
u[nu ki:=si] kFfi. この木で作れ。
u[ri=si] kFfi. これで作れ。材料または道具
〇道具
saburo:=ja ziro:=N=[tu] pau=si tatakai. 三郎は次郎にゾ棒でなぐられた。
u[nu] umɛs=si fai. この箸で食べろ。
ti:]=si fai. 手で食べろ。
u[ri=si] assu. これでやれ。道具を渡して
i[kɛ:mna] uri=si=tu [ap]pɻtaɻ. むかしはこれでゾ遊んだよ。
〇手段、方法、ようす
u[nu] uwagi:=[du] ukɻna:=N nisjɛNɛN=si kau[taɻ. この上着をゾ沖縄で二千円で買った。
v[va=ka taf]kɛ:=si assu. おまえが一人でやれ。
unu ni:=nu ivkariiri／ivkaripa futa:ɻ=si muti kS[taɻ. この荷物が重かったので、二人で持ってきた。

u[riː=paː] mːna=[si] jo[ko=Nkai] nara[pi. これをはみんなで横に並べよう。ものを。
○時間　境界点
　これまでにとりあげた用法は古典語「し」にもあるが、この時間の境界点の用法は古典語にはみられない（鈴木泰氏より）。
kɻnu=si]=tu [miːkS=N nari. きのうでゾ三つになった。年齢

8．9　N(ː)si 格（類似）（格形式のなかに位置づけていいか要検討）

u[rɛː] makɻmunu=Nːsi=[tu] miːrai uɻ. これはお化けにゾ見える。見えている。
jarapi=nu] kui=Nːsi=[tu] kSːkai uɻ. 子どもの声にゾ聞こえている。聞こえる。
hana[koː] mma=Nːsi=[tu] mipana=nu [ni]ti iɳ. 花子はかあさんにゾ顔がよく似ている。
　以下はこれの連体形の例とみていい。
kazuko=[tu] junu=Nːsi=[nu] astau hanako=N=mai [kai] fiːti. 和子とおなじ下駄を花子にも買ってやろう。
u[ri=Nsi]=nu pStu　こういう人、そういう人
ka[ri=Nsi=nu] pStua da[mi. ああいう人はダメだ。さっきあった人

8．10　sui 格　共格１　＜動詞ソエからか？　関係のあいてには不可

○いっしょにするなかま
unu] faː=[sui] appi. この子どもと遊べ。
karɛː] kiː=[ja taukaraː=su]i=[tu] sakiː nu[mi] uɻ. あいつはきょうはだれかとゾ酒を飲んでいる。
araː] a[ta=N]kai vva=[sui saki: nu]ma[ti]=pɛːm. 私はあしたにあなたと酒を飲むんだったかな。
○相互動作のあいて
ziroː=ja ututu=nu saburoː=sui=[tu] jatujum[mu] asi. 次郎は弟の三郎とゾけんかをした。
ka[ri=sui] miːtu=N [naɻ]puskam. あの人と夫婦になりたい。
kɻnu=tu] taroː=sui itɛːi. きのうゾ太郎と会った。×ンカイ格、×ン格
mkɻ=N=[tu] gakkoː=[nu] sjɛNsjɛː=[sui] i[tɛ] u[ta]ɻ. 道でゾ学校の先生と会った。

8．11　tu 格　共格２

○いっしょにするなかま
]taroː=tu appɻtaɻ. 太郎と遊んだ。
taro]ː=[tu] maːtaki sakiː nu]ma[ti. 太郎といっしょに酒を飲もう。意志
unu faː=tu=[tu] appi. この子どもとゾ遊べ。
○相互動作のあいて
mkɻ=N=[tu] gakkoː=[nu] sjɛNsjɛː=[tu] i[tɛ] u[ta]ɻ. 道でゾ学校の先生と会った。
kɻnu=tu] taroː=[tu] itɛːi. きのうゾ太郎と会った。

○関係のあいて
a[ka] munu=[mai] uri=[tu] junu=sui. 私のものもこれとおなじだ。
aN[mai] i[kɛːmna vva]=tu ju[nu]=sui=tu jataːɲ. 私もむかしはあなたとおなじゾだった。
a[ka] munu[a] uri=tu [kita]ti. 私のものはこれと違う。

8. 12　kara 格　奪格

○やりとりのあいて
uri=[paː] taroː=kara=tu mu[ra]i. これをは太郎からゾもらったよ。
[urɛː taru=kara=tu mura]i? それはだれからゾもらった？
○移動の手段
kuruma=kara] iki. 車で行け。
○時間　開始点
aNta=ka] upuɲ[aː stumuti=kara] im=kai=[tu ɲwu] tuɲ=[ka ikS]taɲ. うちのじいさんは朝から海へゾ魚(を)とりにいった。
hanakuː] kɲnu=kara=[tu] jami [niv]vi uɲ. 花子はきのうからゾ病気で寝ている。病んで。
mmakaː] kutu=kara [toːkjoː=N]=tu [uɲ. 孫が去年から東京にゾいる。
○時間　以降（←→マデニ）
saNzi=kara] kuː. 3 時以降に来い。
[saNzi=kara: kuː. 3 時以降に（は）来い。
saNzi=kara:] pɛri. 3 時以降に（は）行け。
○空間　移動の出発点
[mmakaː ikS=tu toːkjoː=kara kS: kuma]ta? 孫はいつゾ東京から帰るか？　来る予定か。
pa]ri=ka[ra] turi kuː. 畑から取ってこい。
○空間　範囲の開始点
　この用法は、対応するマデ相当の＜範囲の終了点＞の用法（後述）とともに、対格や与格の意味に範囲の意味がかぶさったものなので、純粋に格としての用法とはいいがたい。このあとでとりあげるカラの順序の用法とともに、とりたてとの関係が問題になるだろう。
u[ma=kara] kama=taːsi [ka]ti. ここからここまで耕そう。（対格＋範囲）
uma=[kara] kama=taːsi ipiru. ここからあそこまで植えろ。（与格＋範囲）
　以上のカラ格の時空の用法は、このあとにとりあげるマデ・マデニに相当するこの方言の格の用法と対になっている。時間の開始点と以降の用法は、終了点（マデ相当）と限界点（マデニ相当）に、空間の出発点と開始点は、到着点と終了点に、それぞれ対応している。
　以下は、マデ・マデニに相当するこの方言の格の用法とは対応関係のない用法である。
○空間　移動の経由点
uma=nu] mkS=kara [i]ki. ここの道から行け。
○基準
u[ma=kara:] im[ma mai]kaɲ. ここからは海は近い。
u[ma=kara:] imma u[tɛː. ここからは海は遠い。

○順序

共通語にもみられる順序の用法は、さまざまな格の格的な意味に、まずはじめに、という（とりたて的な）順序の意味がかぶさったものである。共通語では対格や与格の用法で、～ヲカラ、～ニカラのように格表示されることはないが、大神方言では主格をのぞいて、対格や具格など多くの格で、格を明示しながらカラが順序の意味を付加する。この点でカラのこの用法は格の用法とはいえず、共通語のモやマデと同様、とりたての用法とみるべきである。

mitum=kara] paɻri. 女(が)カラ入れ。主格相当（ハダカ格の動作主体の用法）
ja:ra] munu:=kara fai. やわらかいものをカラ食べろ。対格（つねに格を明示）
u[ma=kara] pari. ここ(に)カラ貼れ。（ポスターを貼る場所の順序について）与格相当（ハダカ格の動作対象の用法）
u[ma=N=kara] pari. ここにカラ貼れ。与格
ɻ[wu]ja:=Nkai=ka[ra] ikati. 魚屋にカラ行く。Nkai 格（つねに格を明示）
unu] pau=si=ka[ra] tataki. この棒でカラたたけ。具格（つねに格を明示）
taro:]=sui=kara=[tu] numi. 太郎とカラゾ飲んだ。共格１（つねに格を明示）
u[nu] fa:=tu=ka[ra] appi. この子とカラ遊べ。共格２（つねに格を明示）
u[ri=kara=kara] turi. この人からカラ取れ。奪格（つねに格を明示）
u[ma=kara=kara] turi. ここからカラ取れ。奪格（つねに格を明示）

8. 13　kami 格　限界格１

つぎのターシ格とともに、「まで」に対応する終了点と「までに」に対応する限界点の両方に使用される。文脈によって区別されるようである。

○時間　終了点
jozi=kami] jɛki=N mati] iri. ４時まで駅で待っていろ。
a[sati]=kami あさってまで
]ikS=kami いつまで

つぎは終了点の動詞の例。

taro:=ka] kS:[kɛ]=ka[mi] u[ma=N] uri. 太郎が来るまでここにいろ。やや不自然か。

○時間　限界点
a[sati]=ka[mi] itas kumata. あさってまでに出すベキだ。出さなければならない。予定などを。
gozi=kami [Nki]taka: (naraN). ５時までに帰らなくては(ならない)。
pSsuma]=ka[mi] assu. 昼までにやれ。

○空間　移動の到着点
uma=ka]mi [ku:. ここまで来い。

○空間　範囲の終了点
u[ma]=ka[mi] katiru. ここまで耕せ。（対格＋範囲）
u[ma]=ka[mi] ipiru. ここまで植えろ。（与格＋範囲）

8．14　taːsi 格　限界格 2

〇時間　終了点

jozi]=taː[si jɛki=N mati] iri．4 時まで駅で待っていろ。

a[sati]=taː[si] u[ma=N] uri．あさってまでここにいろ。

aNta=ka] ɿaː go[zjuːnɛN]=mai=taː[sjɛː] [isja a]si=tu utaːɿ．うちのおとうさんは 50 年前までは医者をしてゾいた。

つぎは終了点の動詞の例。

kari=ka] kSː=taːsi ma[ti i]ri．あいつが来るまで待っていろ。

u[ri=ka] fau[kɛ]=taː[sjɛː fau]na．この人が食べるまでは食べるな。

a[ka] aɿkɛ=taːsjɛː aɿna．私が言うまでは、言うな。

〇時間　限界点

ata]=taː[si] itasi．あしたまでに出せ。書類などを。

a[sati]=taː[si] itas kumata．あさってまでに出さなければならない。

gozi]=taːsi [Nki]takaː (naraN)．5 時までに帰らなくては(ならない)。

pSsuma]=taː[si] assu．昼までにやれ。

ju[sa]ra[pi]=taː[si] assu．夕方までにやれ。

〇空間　移動の到着点

u[nu] niː=[ju jaː]=taː[si] katami i[ki] fiːru．この荷物を家までかついで行ってくれ。

kama=[nu] pari=taː[si] aɿkaː．あそこの畑まで歩こう。

〇空間　範囲の終了点

u[ma=kara] kama=taːsi [ka]ti．ここからここまで耕そう。（対格＋範囲）

kama]=ka[ra] uma=taːsi ipiru．あそこからここまで植えろ。（与格＋範囲）

９　文献

上村幸雄（1991）「琉球列島の言語、総論」『言語学大辞典』4

大野眞男（1999）「南琉球大神島方言の音対応と音変化」『岩手大学教育学部研究年報』59-2（岩手大学）

かりまたしげひさ（1993）「大神島方言のフォネームをめぐって」『沖縄文化』66（沖縄文化協会）

平山輝男・大島一郎・中本正智（1967）『琉球先島方言の総合的研究』（明治書院）

法政大学沖縄文化研究所編（1977）『琉球の方言・大神島』（法政大学沖縄文化研究所）

琉球大学沖縄文化研究所編（1968）『宮古諸島学術調査研究報告（言語・文学編）』（琉球大学沖縄文化研究所編）

10　「おおきなかぶ」大神方言版

本節では、童話「おおきなかぶ」を大神方言に訳したものを報告する。日本語ではていねい体になっているが、大神方言には文法的なていねい体がない。また、カナ表記の中でひらがなを使用している部分は中舌音である。カナ表記では母音の無声化を区別しない。

(1) ウプウプヌ　カプ
upu-upu=nu　kapu
おおきな　かぶ

(2) ウプいアカトゥ　カプー　イピ
upuɿa=ka=tu　kapu:　ipi.
おじいさんがゾ　かぶを　うえました。

(3) アきマアきマヌ　カプン　ナリ
akɿma-akɿma=nu　kapu=N　nari
「あまいあまい　かぶに　なれ。

(4) ウプーウプヌ　カプン　ナリ
upu:-upu=nu　kapu=N　nari
おおきなおおきな　かぶに　なれ」

(5) アきマヌ　イきアリヌ
akɿma=nu　ikɿari=nu
あまい　げんきのよい

(6) マータヌ　ガバー
ma:ta=nu　gaba:
ほんとうの　大きな

(7) カプントゥ　ナリ
kapu=N=tu　nari
かぶにゾ　なりました。

(8) ウプいアー
upuɿa:
おじいさんは

(9) カプートゥ　ンーカティー　アシ
kapu:=tu　N:kati:　asi

かぶをゾ　　ぬこうと　　しました。

(10)ヨイショ　ヨイショ
joisjo　　joisjo
よいしょ　よいしょ

(11)アッスカトゥ　カプー　ンーカイン
assuka=tu　kapu:　N:kaiN
ところがゾ　かぶは　ぬけません。

(12)ウプいアー　ウプンマウ　アピリ　キ。シ
upuɿa:　upummau　apiri k。isi
おじいさんは　おばあさんを　よんできました。

(13)ウプンマー　ウプいアウ　ぴ。サスキ
upumma:　upuɿau　pSsaski
おばあさんは　おじいさんを　ひっぱって、

(14)ウプいアカ　カプー　ぴ。サス。キ
upuɿa=ka　kapu:　pSsaski
おじいさんが　かぶを　ひっぱってーーー

(15) ヨイショ　ヨイショ
joisjo　joisjo
よいしょ　よいしょ

(16)アンシヌシャクンナ　カプー　ンーカイン
aNsinusjakuNna　kapu:　N:kaiN
それでも　かぶは　ぬけません。

(17)ウプンマー　ンマカウ　アピリ　キ。シ
upumma:　mmakau　apiri k。isi
おばあさんは　まごを　よんできました。

(18)ンマカヌ　ウプンマウ　ぴ。サス。キ
mmaka=nu　upummau　pSsaski
まごが　おばあさんを　ひっぱって、

(19)ウプンマー　ウプいアウ　ぴ。サス。キ
upumma:　upuɿau　pSsaski

おばあさんは　おじいさんを　ひっぱって、

(20)ウプいアカ　カプー　ぴ。サス。キ
upuɿa=ka　kapu:　pSsaski
おじいさんが　かぶを　ひっぱってーーー

(21) ヨイショ　ヨイショ
joisjo　joisjo
よいしょ　よいしょ

(22)アンシカミマイ　カプー　ンーカイン
aNsi=kami=mai　kapu:　N:kaiN
それでも　かぶは　ぬけません。

(23)アンシ　イリパトゥ　ンマカー　インヌ　サーリ　キ。シ
aNsi iripa=tu　mmaka:　innu　sa:ri k。isi
そこでゾ　孫は　イヌを　つれてきました。

(24)インヌ　ンマカウ　ぴ。キ　ンマカヌ　ウプンマウ　ぴ。キ
in=nu　mmakau　pSki　mmaka=nu　upummau　pSki
イヌが　孫を　引き　孫が　おばあさんを　引き、

(25)ウプンマカ　ウプいアウ　ぴ。キ
upumma=ka　upuɿau　pSki
おばあさんが　おじいさんを　引きーーー

(26)ンミタ　ンミタ　ンーカイン
mmita　mmita　N:kaiN
まだ　まだ　ぬけません。

(27)インナ　マユー　アピリ　キ。シ
inna　maju:　apiri k。isi
イヌは　ネコを　よんできました。

(28)マユヌ　インヌ　ぴ。キ　インヌ　ンマカウ　ぴ。キ
maju=nu　innu　pSki　in=nu　mmakau　pSki
ネコが　イヌを　引き、　イヌが　孫を　引き、

(29)ンマカー　ウプンマウ　ぴ。キ
mmaka:　upummau　pSki

孫は　　おばあさんを　引き、

(30)ウプンマカ　　ウプいアウ　　ぴ。キ
upumma=ka　upuɿau　pSki
おばあさんが　おじいさんを　引きーーー

(31)アンシカミマイ　　カプー　ンーカイン
aNsi=kami=mai　kapu:　N:kaiN
それでも　かぶは　ぬけません。

(32)マユー　ヤムヌー　サーリ　キ。シ
maju:　jamunu:　sa:ri k。isi
ネコは　ネズミを　つれてきました。

(33)ヤムヌヌ　マユー　ぴ。キ　マユヌ　インヌ　ぴ。キ
jamunu=nu　maju:　pSki　maju=nu　innu　pSki
ネズミが　ネコを　引き、　ネコが　イヌを　引き、

(34)インヌ　ンマカウ　ぴ。キ　ンマカヌ　ウプンマウ　ぴ。キ
in=nu　mmakau　pSki　mmaka=nu　upummau　pSki
イヌが　孫を　引き、孫が　おばあさんを　引き、

(35)ウプンマカ　　ウプいアウ　　ぴ。キ
upumma=ka　upuɿau　pSki
おばあさんが　おじいさんを　引きーーー

(36) ヨイショ　ヨイショ
joisjo　joisjo
よいしょ　よいしょ

(37)ヤットゥカーン　カプー　ンーカイ
jattuka:N　kapu:　N:kai
やっと　かぶは　ぬけました。

本稿は白馬日本語研究会合宿(2016/08/23～25)、平成 28 年度共同研究プロジェクト研究発表会「格と取りたて」(2016/09/20)、沖縄言語研究センター定例研究会(2017/01/21)で発表したものをもとに、「平成 29 年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」で調査した結果をまとめたものである。

おもな話者は大神島在住の狩俣英吉氏（1925(T.14)年 9 月 25 日生）である。